

【背景】チアマゾール(以下、MMI)は、効果の確実性と重症副作用の回避という観点からバセドウ病の薬物療法の第一選択薬である。一方で、妊娠初期に内服した MMI と胎児の先天異常(臍腸管遺残、臍帯ヘルニア、食道閉鎖など)は、MMI 奇形症候群として以前より知られている。その詳細な発生頻度などは不明である。【目的】外科的治療を要した臍腸管遺残、臍帯ヘルニア、食道閉鎖症例の母の妊娠期の MMI 内服歴の頻度を検討し、こうした外科疾患と妊娠中の MMI 内服歴の関連性を確認すること。【方法と結果】対象は、1991 年～2010 年の 20 年間に東京都立清瀬小児病院を受診し、臍腸管遺残、臍帯ヘルニア、食道閉鎖のいずれかもしくは合併に対して外科的治療が行われた 68 例(染色体異常の確定症例は除く)で、母の妊娠期の MMI 内服歴の有無を、診療録に基づき後方視的に検討した。患者 68 例の内訳は、臍腸管遺残 12 例、臍帯ヘルニア 14 例、食道閉鎖 46 例であった。68 例のうち、母の妊娠中の MMI 内服歴は 6 例において認められた。この 6 例では臍腸管遺残単独 3 例、臍腸管遺残と臍帯ヘルニアの合併 2 例、食道閉鎖単独 1 例であった。【考察】臍腸管遺残は食道閉鎖に比して症例数が少ないにも関わらず、臍腸管遺残症例に MMI 内服歴が多くみられ(5 例/12 例 vs 1 例/46 例)、臍腸管遺残が MMI 奇形症候群の主症状と考えられた。6 例はすべて 2000 年以前の症例であり、1999 年の MMI の添付文書改定後の妊婦に対する MMI 治療を控える傾向を反映しているものと考えられた。倫理的観点から質の高い前向き臨床研究をおこなうことは難しい、また、MMI 内服群と非内服群での今回のような発生頻度のまれな外科疾患の有意差を検出するには極めて多い、おそらく万の単位の患者数を要することと考えると、今回の検討結果は臨床的に価値のあるものと言える。【結論】MMI 関連奇形として生じた外科疾患のうち、特に臍腸管遺残がもっとも MMI と強く関連していると考えられえた。